

県央総合防災センターの整備により**備蓄品の迅速な搬送を実現**

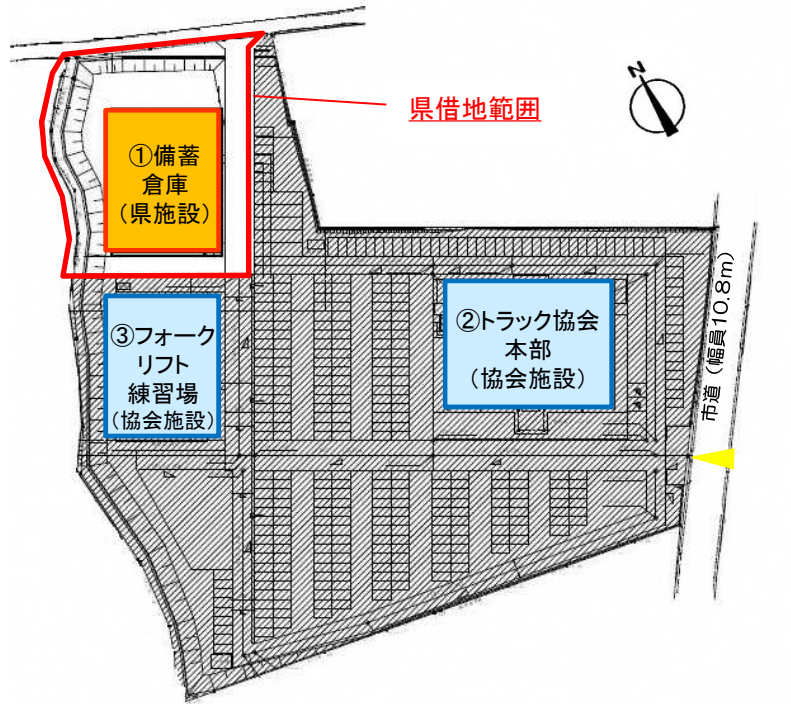
— (一社)茨城県トラック協会との連携 —

県央総合防災センターの概要

(一社)茨城県トラック協会の本部施設の敷地の一部を借用し、「①県の備蓄倉庫」を整備しました。トラック協会が整備する「②本部施設」や「③フォークリフト練習場(災害時には支援物資集積場として機能)」と一体的に整備することで、災害時に備蓄品の迅速な搬送が可能な物資の集積拠点として機能します。

- 所 在 : 水戸市小吹町 (県庁から2km)
- 整備期間 : 平成28年10月～平成29年5月
- 保管物資 : 食料約11万食(※)、水、
トイレ処理セット、トイレテント、
ブルーシート 等
- 床面積 : 1,200㎡ (県の備蓄倉庫面積)

※ 県西総合防災センター(約6万食)、県南総合防災センター等(約6万食)と合わせて、**約23万食の確保**を目指す。



県央総合防災センター配置図



備蓄倉庫

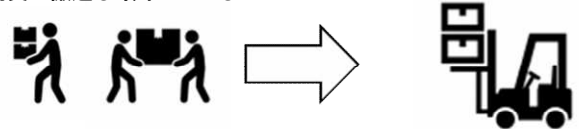
ポイント① 搬送に適した立地、施設計画

- ・ I Cに近く、他県や企業・団体からの支援物資を効率よく集積し、素早く物資を被災地に送ることが可能。(水戸IC、茨城町西ICともに約8km)
- ・ 県庁からも近く、災害時に職員が迅速に到着可。
- ・ 駐車場は、中型ヘリコプターの離着陸が可能。



ポイント② 物資の搬出入・仕分作業の効率化

- ・ フォークリフトや大型トラックを活用できる構造であるため、物資を迅速に被災地に送ることが可能。
 人力は多人数が必要
 物資の搬送も時間がかかる
 フォークリフトは少人数で
 大量の荷物を運ぶことが可能



10トン車の搬出入が可能な扉の設置 (横幅 5m×高さ 4.5m)	雨天時も作業可能な庇の設置 (5m×40m)
ウイング車(5.5m)が側面開閉できる 天井高(6m～8m)を確保	フォークリフトの稼働に最適な構造 (倉庫内無柱)